

## きっかけ

岩手県立花巻北高等学校 1年 福代 理菜

正直に言うと、私はこの作文を書き始めるまで、世界について何も考えられていなかった。きっと心のどこかで、他人事のように思っていたのだろう。しかし、この作文を書くことをきっかけに、遅いかもしれないが、自分と世界の距離を近づけて考えることにした。

世界をもっと身近な存在として考えるために、SDGsの17の目標で、私が特に最近の時代で大切だと感じるものを選んだ。未来につながるために私が大切だと感じたのは、10番の「人や国の不平等をなくそう」だ。ここでは、このことについて書こうと思う。

不平等をなくすために私が、私たちができることは何だろうか。住み慣れた町から離れたことのない私は、まだまだ様々な人や文化と触れ合う機会が足りないと思う。しかし、今すぐにどこかへ行くことはできないし、私と同じような人も少なくないだろう。そこで、私はどんな人でも今すぐに実践できる不平等をなくす方法を考えてみた。

まず、身近で起こる不平等について考えた。特定の相手に対して強い言葉を投げた人によって傷つく人がいることが、身近な不平等であると考え、私は人との接し方を変えることにした。私にとって最も身近な存在である家族に対して、強く当たらないように心がけたり、優しい口調で話したりした。その結果、家族との言い争いが減り、気持ちよく生活できるようになった。また、自分の心に、周りを見る余裕が生まれた。親しき中にも礼儀あり。この言葉のように、知り合いだから、友達だから、家族だからと甘えず、常に優しさをもった付き合い方をすべきだと思う。ここからさらに発展させ、すべての人に礼儀ありとでも言おう。親しいと感じてはいない相手にも思いやりのある接し方をすべての人ができるようになれば、身近にある不平等は減るだろう。

では、世界全体の中での不平等をなくすには、具体的に何をすればよいのだろうか。課題として、国と国との間での格差、身体的、精神的特徴による差別などが挙げられる。国と国の間での格差をなくすために、私たちがすぐにできることは二つあると私は考える。一つは募金をすること、もう一つはフェアトレードの商品を購入することだ。募金は私も何度もしたことがある。一方、フェアトレードの商品については、学校の授業で習ったため知っていたが、実際に手に取ったことはない。興味を持って調べてみたところ、よく知られているチョコレート以外にも、スパイスやオイル、化粧品など、様々な商品があった。また、コンビニエンスストアでも購入することが可能だということを知った。これから買い物をするときは細かい部分まで注目して買ってみようと思う。身体的、精神的特徴による差別をなくすためには、見た目だけがすべてではない、心の病気があることは何も悪いことではないということなどを世界の共通認識にすべきだと考える。また、お互いの理解を深めるために、私たち一人ひとりが、世界には自分とは違う人がいるという心の準備をしよう。自分だけではない。知らない誰かがいるから生きていける。だからこそ、ここにいない誰かのために今何ができるのだろう、と一度立ち止まって考えてみる。そうすれば優しい心が還ってきて、傷つけあう世界がなくなるだろう。夢を語っているだけのようだが、SNSが発達して、名前も顔もない人の心ない言葉のせいで苦しんでいる人がいる今の時代には、とても大切なのではないだろうか。

最後に、私が伝えたいことは、考えるきっかけ、変わるきっかけは身近にあるということだ。何も考えず自分勝手に生きていた私でも、世界に目を向け、思いやりをもった生活を心がけたことをきっかけに、視野を広げることができた。そして、この作文が、誰かのきっかけになればうれしい。